



甲虫ニュース COLEOPTERISTS' NEWS

琉球列島の水生甲虫類, I*

佐藤正孝

琉球列島の水生甲虫類についてはこれまでの報告で比較的良好に判っているといえよう (SATŌ, 1965, 1968; 阿部, 1986b; 松井, 1990a; 北山, 1993)。ただ水生甲虫類といった場合, どの程度までの範囲とするかによって, 取り扱う群が異なってくる。そこで, ここでは, 成虫・幼虫ともに水生生活をしている種という規定をした上で, 検索を作成した。幼虫のみが水生生活をしている種もかなりの数になるが, 一応除いて取り扱ったこともあり, 従来の水生甲虫類を取り扱った著書 (佐藤, 1985b) などとも多少異なっていることを了解願いたい。

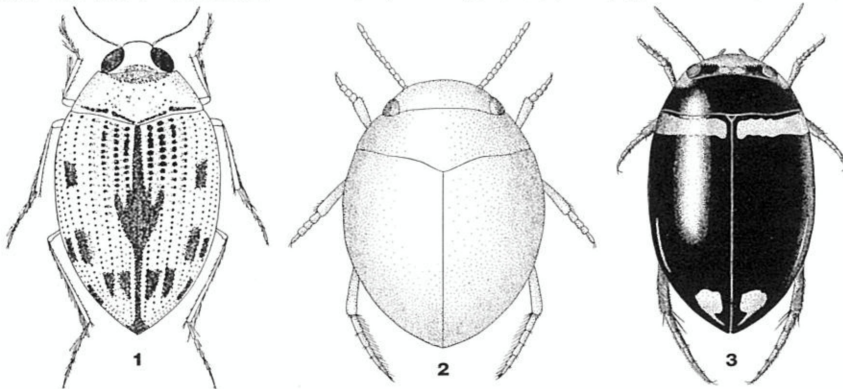
なお, 今回は限られた頁数の関係もあって, 各種についての詳しい解説をするまでには至らなかった。そこで, さらに詳しく調べたい方は, 上野・佐藤・森本 (1973) および佐藤 (1985b) が半水生種をも含めて日本産種全体を解説しているのを, それらを参照されるとよい。また研究を進展させたい方々の参考にと, 関係文献については網羅するように努めた。

この原稿は, 「琉球列島の陸水生動物」といった, 単

行本のために用意したものである。それが, かなりの年数を経た今日に至っても出版のめどが立たないので, 検索表と分布表の部分のみをここに印刷することとした。用意した図も大部分を除いたが, 上野・黒沢・佐藤編 (1985) および森・北山 (1993) の図鑑と併せることによって同定もかなり容易となることと思ひ, この検索表が十分役立ち得ると考え公表することとしたものである。なお, この検索での取扱いは属と種までに限定してあり, 亜属または亜種については一部を除いてあえて触れていないことを了解されたい。

琉球列島産水生甲虫目の亜目および科への検索表

1(8) 後基節は後胸腹板に癒合して不動, 中央部で第1腹板を完全に2分している。腹板は原則として6節が認められ, 基部3節は互いに癒合しているが, その間の会合線は認められる。前胸の背側会合線が認められる。……………食肉亜目 Adepaga
2(3) 後基節は著しく発達して大きな平板を形成し, 基方の3腹節と後腿節の基部とを覆う。後胸腹板は, 明瞭な会合線によって前後の2部に分けられ



- 図1 コウトウコガシラミズムシ *Haliplus kotoshonis* KANO et KAMIYA (KANO and KAMIYA, 1931);
 図2 ウエノチビケシゲンゴロウ *Microdytes uenoi* M. SATŌ (SATŌ, 1972);
 図3 アトホシヒラタマメゲンゴロウ *Platynectes chujoii* M. SATŌ (SATŌ, 1982).

* M. SATŌ, Aquatic Coleoptera of the Ryukyu Archipelago, I.

る……………コガシラミズムシ科 Haliplidae
 3(2) 後基節は単純で、後胸腹板には横方向の会合線がない。
 4(5) 複眼は上下に2分される。触角はきわめて短く、第2節は膨大している。第8腹節の背面は上翅より露出する。前肢は長く、中・後肢は短くてかい状となる……………ミズスマシ科 Gyridae
 5(4) 複眼は上下に2分されない。触角は細長く、第2節が特に大きくはない。腹部は上翅によって完全に覆われる。中・後肢は大きい、かい状とはならない。
 6(7) 体の背面は強く隆起し、腹面は平坦。後基節は小さく、後胸腹板とともに転節の基部より後方まで伸長する縦に長く隆起した板状となる。後胸前側板は中基節に達せず、中胸前側板は不明瞭……………コップゲンゴロウ科 Noteridae
 7(6) 体は背・腹面とも隆起する。後基節は特に隆起した板状とはならない。後胸前側板は中基節に達するか、あるいはきわめて接近し、中胸前側板は明瞭……………ゲンゴロウ科 Dytiscidae
 8(1) 後基節は原則として後胸腹板に癒合せず、たとえ癒合している場合でも第1腹板を2分しない。もし腹板が6節で構成される場合には、それらは第3~8節に属する。前胸の背側会合線が認められない……………多食重目 Polyphaga
 9(14) 腹部の第2腹板は退化して側片として残る。触角の第6節ときに第5節または第4節が盃状となり、先端3~5節が微毛で覆われ球桿部を形成する。
 10(11) 頭頂にY字形の頭楯会合線がない。触角の球桿部は5節よりなる。附節は褥盤を欠き、第5節は第1~4節をあわせたよりも長い。腹部は6節認められる。雄交尾器に明瞭な基片を欠く……………ダルマガムシ科 Hydraenidae
 11(10) 頭頂にY字形の頭楯会合線が認められる。触角の球桿部は3節よりなる。附節は数本の剛毛をもった褥盤を有し、第5節は第1~4節をあわせたものとはほぼ同じか、または短い。腹部は5節が認められる。雄交尾器は明瞭な基片をそなえる。
 12(13) 体は細長く、背面はあまり膨隆しない。複眼は突出する。前胸背板は基部が上翅幅より狭く、背面に不規則な凹陷が認められる。上翅の点刻列は列状で深く印刻される。前基節孔の後方は閉じている。触角は7節よりなる。附節の第5節は第1~4節を合わせたものとはほぼ同じ長さ。各腹節基部および中央は隆起する……………ホソガムシ科 Hydrochidae
 13(12) 体は球形ないし楕円形で、背面はよく膨隆する。複眼はあまり突出しない。前胸背板は基部が上翅と同幅か、または狭く、背面は滑沢である。上翅の点刻は列状であるが、微弱なものが多い。前基節孔の後方は開いている。触角は9節で、稀に7~8節よりなる。附節の第5節は第1~4節を合わせたよりも短い。各腹節には隆起部がない……………ガムシ科 Hydrophilidae

14(9) 腹部の第2腹板は退化して側片となることなく、第3腹板と同じように発達する。触角の形態はいろいろであるが、盃状節をとまなうことはない。
 15(16) 前基節は円形。触角は細長く櫛歯状を呈しない。中胸腹板中基節間で後胸腹板と密に接する。雄交尾器は相称で先端に針状突起を有する……………ヒメドロムシ科 Elmidae
 16(15) 前基節は横形で円筒状。触角は短く、先端数節で櫛歯状を呈する。中胸腹板は前胸腹板突起の下に隠され腹面から認められなく、前胸腹板突起は後胸腹板と密に接する。雄交尾器は不相称で先端に針状突起を有しない……………ドロムシ科 Dryopidae
コガシラミズムシ科 Haliplidae の属および種への検索表
 1(2) 上翅後半に亜会合線を有する。後基節は腹部第1~5節を覆い、側縁は縁取られる……………コガシラミズムシ属 *Peltodytes* (頭頂に2個の黒紋があり、後基節板の後縁はわずかに突出する。体長3.6~3.8 mm……………シナコガシラミズムシ *P. sinensis* (HOPE))
 2(1) 上翅に亜会合線を有しない。後基節板は腹部第1~3節を覆い、側縁は縁取られない……………ヒメコガシラミズムシ属 *Haliplus* (上翅の黒紋は中央では明瞭であるが、側方ではあまりはっきりしない。体長3.1~3.7 mm……………コウトウコガシラミズムシ *H. kotoshonis* KANO et KAMIYA)
ミズスマシ科 Gyridae の属および種への検索表
 1(8) 第8腹板は半円形で、中央に細毛からなる条線はない。
 2(7) 上翅の会合線は縁取られない。前胸背板の後角に数本の剛毛をもった小孔がある。小楯板は認められない……………オオミズスマシ属 *Dineutus*
 3(6) 上翅側縁後方に刺状突起がある。
 4(5) 前胸背と上翅の側縁は幅広く黄色に縁取られる。上翅側縁後方の刺状突起は顕著。体長7~12 mm……………オオミズスマシ *D. orientalis* (MOEER)
 5(4) 前胸背と上翅の側縁は黄色くならない。上翅側縁後方の刺状突起は不明瞭。体長7.8~8.4 mm……………ツマキレオオミズスマシ *D. australis* (FABRICIUS)
 6(3) 上翅側縁後方に刺状突起がなく、側縁は一樣にまるまる。体長15~20 mm……………オキナワオオミズスマシ *D. mallyi* RÉGIMBART
 7(2) 上翅の会合線は縁取られる。前胸背板の後角に小孔がない。小楯板は認められる……………ミズスマシ属 *Gyrinus* (上翅側方の点刻列は強く、やや溝状となる。体長4.1~5.0 mm……………リュウキュウヒメミズスマシ *G. ryukyuensis* M. SATO)
 8(1) 第8腹板は細長く、第7~8腹板中央に細毛からなる条線がある。小楯板は認められる……………オナガミズスマシ属 *Orectochilus* (背面は黒色で、体下面は黒褐色ないし黒色。体長

4.1-4.8 mm.....ヤエヤマコオナガミズスマシ *O. yayeyamensis* M. SATO
 コツゲンゴロウ科 *Noteridae* の属および種への
 検索表

1(4) 前脛節の先端はまるまり、下側に太く曲がった1本の端刺をそなえる。
 2(3) 前胸突起はほぼ平行で、先端は切断状。後基節は剛毛をともなった点刻を密にそなえ、外角はまるまる。後腿節は内端角に剛毛束を有する.....ツヤコツゲンゴロウ属 *Canthydrus* (前胸背は赤褐色で前・後縁にそって黒くなり、腹部は黒色。体長 3.2-3.5 mmツヤコツゲンゴロウ *C. nitidulus* SHARP)
 3(2) 前胸突起は先端にむかいややふくらみ、先端はまるい。後基節は剛毛をともなった点刻を欠き、外角はややとがる。後腿節は内端角に毛束を有しない.....コツゲンゴロウ属 *Noterus* (赤褐色で強い光沢をもち、上翅に4細点刻列がある。体長 3.0-3.4 mmコツゲンゴロウ *N. japonicus* SHARP)
 4(1) 前脛節の先端は切断状で、内方に2本、外方に1本の端刺をそなえる.....チビコツゲンゴロウ属 *Neohydrocoptus* (全体黄褐色で、上翅に斜の長帯紋を有する。体長 2.2-2.4 mm.....チビコツゲンゴロウ *N. subvittulus* (MOTSCHULSKY))
 ゲンゴロウ科 *Dytiscidae* の亜科、属および種への
 検索表

1(48) 小楯板はまったく認められないが、ときに先端がわずかに認められることがある。
 2(37) 前・中肢の附節は第4節が非常に小さくて第3節の葉片間に隠され、偽4節となる。後胸前側板は中基節に達する.....ケンゲンゴロウ亜科 *Hydroporinae*
 3(14) 後肢の爪は長さが異なり、外側のものが非常に短く認めにくい。後脛節は基部から先端にむかいほぼ同じ太さ。
 4(7) 頭楯の前縁は縁取られない。体下面は細かく疎点刻される。体はやや扁平。
 5(6) 後胸腹板の翼片部に密な点刻がある。上翅に明瞭な斑紋がある.....キボシケンゲンゴロウ属 *Nipponhydrus* (上翅は黒色で基部に2黄紋を有する。前胸背板の点刻は疎。体長 2.5 mm 前後.....フタキボシケンゲンゴロウ *N. bimaculatus* (M. SATO))
 6(5) 後胸腹板の翼片部にまばらな点刻がある。上翅に明瞭な斑紋がない.....チビケンゲンゴロウ属 *Microdytes* (赤褐色。背面は滑沢で、微細点刻を散布する。体長 1.4-1.6 mm.....ウエノチビケンゲンゴロウ *M. uenoi* M. SATO)
 7(4) 頭楯の前縁は縁取られる。体下面は強く密に点刻される。体は著しく膨隆する.....ケンゲンゴロウ属 *Hyphyrus*

8(13) 上翅の点刻は大小二様である。体は短卵形。
 9(12) 後脛節の長い端刺の側縁は鋸歯状となる。
 10(11) 上翅の大小点刻の差は明瞭。体長 4.5-5.0 mm ...ヒメケンゲンゴロウ *H. laeiventris* SHARP
 11(10) 上翅の大小点刻の差はそれほど顕著でない。体長 3.9-4.9 mmケンゲンゴロウ *H. japonicus* SHARP
 12(9) 後脛節の長い端刺の側縁は滑らかとなる。体長 3.4-3.9 mmコケンゲンゴロウ *H. pulchellus* CLARK
 13(8) 上翅の点刻は一様で大きく密。体は卵形。体長 3.7-4.9 mmタイワンケンゲンゴロウ *H. lyratus* SWARTZ
 14(3) 後肢の爪は同長。後脛節は基部が細く先端にむかって太くなる。
 15(24) 前胸腹板突起は先端部で幅広く拡がり、ほぼ三角状となる。後基節内板突起は幅広く、側方が葉片状となる。上翅の先端はとがる.....マルケンゲンゴロウ属 *Hydrovatus*
 16(23) 頭楯前縁の縁取りは不明瞭で、前方へ高くならない。
 17(20) 上翅の点刻は列状とはならない。
 18(19) 背面は網状に強く点刻される。上翅は一樣に点刻され、光沢は鈍い。体長 2.4-2.7 mmマルケンゲンゴロウ *H. subtilis* SHARP
 19(18) 背面は網状に印刻されるが強くない。上翅は疎であるが明瞭に点刻され、光沢がある。体長 1.7-1.8 mmチビマルケンゲンゴロウ *H. pumilus* SHARP
 20(17) 上翅の点刻は列状となり、3点刻列が基半に認められる。
 21(22) 上翅の点刻は、小さく浅いが、3点刻列は明瞭である。体長 3.5-3.7 mmオオマルケンゲンゴロウ *H. bonvouloiri* SHARP
 22(21) 上翅の点刻は、明かであるが、3点刻列は不規則となる。体長 2.3-2.4 mmコマルケンゲンゴロウ *H. acuminatus* MOTSCHULSKY
 23(16) 頭楯前縁の縁取りは明瞭で、前方へ高くなる。上翅は弱い網目状印刻を有する。体長 2.4 mアマミマルケンゲンゴロウ *H. seminarius* MOTSCHULSKY
 24(15) 前胸腹板突起は先端部で拡がらず、ややとがる。後基節内板突起は幅が狭く、側方は葉片状とならない。上翅の先端はまるまる。
 25(36) 後基節内板突起の先端は、腹部第1節と同一平面にあり、後方に張りださないで、転節基部は認められる。
 26(29) 両眼間の後方にそれを結ぶ横刻線がある。
 27(28) 上翅側片基部はくぼみとならない。頭楯前縁は縁取られない。体は楕円形.....チャイロチビゲンゴロウ属 *Liodessus* (上翅には大きな暗紋があるが、変化が著しい。体長 2.6-3.4 mm.....チャイロチビゲンゴロウ *L. megacephalus* (GSCHWENDTNER))

- 28(27) 上翅側片基部は明らかにくぼみ, 不明瞭ながら稜界線が認められる. 頭楯前縁は縁取られる. 体は半円形 ……マルチビゲンゴロウ属 *Leiodytes* (黄褐色で, 上翅の会合線上に鉄サビ色の汚点状の紋とその周辺に不規則な紋がある. 体長 1.8-1.9 mm) ……サビモンマルチビゲンゴロウ *L. orissaensis* (VAZIRANI)
- 29(26) 両眼間の後方にそれを結ぶ横刻線がない.
- 30(35) 上翅に会合線がある ……チビゲンゴロウ属 *Hydroglyphus*
- 31(34) 上翅の斑紋は幅広く全体に広がる.
- 32(33) 上翅は濃褐色で, いくつかの不明瞭な淡黄色紋がある. 体長 1.8-2.0 mm ……チャマダラチビゲンゴロウ *H. inconstans* RÉGIMBART
- 33(32) 上翅は黒褐色で, 基部 1/3 付近に黄色の横帯がある. 体長 2.0 mm ……キオビチビゲンゴロウ *H. kifunei* NAKANE
- 34(31) 上翅の斑紋は縦長となる. 体長 2.0-2.2 mm ……チビゲンゴロウ *H. japonicus* (SHARP)
- 35(30) 上翅に会合線がない ……ナガチビゲンゴロウ属 *Limbodessus* (褐色で, 背面は粗点刻を有する. 体長 2.0-2.2 mm) ……ナガチビゲンゴロウ *L. compactus* (CLARK)
- 36(25) 後基節内板突起の先端は, 腹部第1節と同一平面上になく段をなして隆まり, 葉片となって後方に張り出すため, 転節基部は認められない. 頭楯前縁の縁取りは中央で切断される ……タマケシゲンゴロウ属 *Herophydrus* (赤褐色で, 各上翅に黒色の4縦条を有する. 体長 4.1-4.5 mm) ……タマケシゲンゴロウ *H. rufus* (CLARK)
- 37(2) 前・中肢の附節は5節からなる. 後胸前側板は中基節に達しない ……ツブゲンゴロウ亜科 *Laccophilinae* (ツブゲンゴロウ属 *Laccophilus*)
- 38(47) 上翅は常に明瞭な斑紋が認められる.
- 39(42) 上翅の斑紋は横帯または縦条からなる.
- 40(41) 上翅は褐色で, 基部と先端部に縦条からなる横帯紋がある. 体長 3.6-3.8 mm ……コウベツブゲンゴロウ *L. kobensis* SHARP
- 41(40) 上翅は黒色で, 基部と中央よりやや後方に黄褐色の横帯がある. 体長 2.7-2.9 mm ……ミナミツブゲンゴロウ *L. pulicarius* SHARP
- 42(39) 上翅の斑紋は斑点ないし屈曲した波状の条線からなり, ときに条線が消失し横帯となる.
- 43(46) 上翅の波条線紋は明瞭で, 基部で中断され横帯となることもあるが不規則ではっきりとしない.
- 44(45) 上翅は明るいレンガ色で, 波条線紋がはっきりとしており, 基部で中断することがない. 体長 3.4-4.4 mm ……サザナミツブゲンゴロウ *L. flexuosus* AUBÉ
- 45(44) 上翅は黄褐色で, 波条線紋は, 基部で斜めの黄色の横帯となり先端近くで黄紋となって不規則に中断される. 体長 3.5-4.2 mm ……シャープツブゲンゴロウ *L. sharpi* RÉGIMBART
- 46(43) 上翅の波条線紋は網状となり, 基部で常に中断され明かな横紋を形成する. 体長 3.5-3.8 mm ……ウスチャツブゲンゴロウ *L. chinensis* BOHEMAN
- 47(38) 上翅は黄褐色で明瞭な斑紋がない. 体長 4.1-5.0 mm ……ツブゲンゴロウ *L. difficilis* SHARP
- 48(1) 小楯板は明らかに認められる.
- 49(64) 複眼の前縁に前頭側縁角が湾入する. 雄の前附節第1~3節は拡大するが, 吸盤を形成しない ……ヒメゲンゴロウ亜科 *Colymbetinae*
- 50(63) 後肢の爪は同じ長さ. 後附節の各後縁は直線状となるが, ときに外縁角は斜めに裁断状となる.
- 51(58) 上翅は数条の明らかな条溝をもつ ……セスジゲンゴロウ属 *Copelatus*
- 52(57) 上翅には6条の縦溝と1条の亜縁溝がある.
- 53(54) 上翅は赤褐色で基部は幅広く, 側縁は狭く黄色となる. 体長は幅の約2.5倍. 体長 3.7-3.8 mm ……チビセスジゲンゴロウ *C. minutissimus* BALFOUR-BROWNE
- 54(53) 上翅は褐色ないし黒色で, 側縁は黄色とまらない. 体長は4mm以上.
- 55(56) 上翅はほぼ一様に暗褐色ないし黒色で, 基部は淡色とならない. 体長は幅の約2.2倍. 体下面は赤褐色. 体長 4.0-4.6 mm ……タイワンセスジゲンゴロウ *C. tenebrosus* RÉGIMBART
- 56(55) 上翅は褐色ないし黒色で, 基部は淡色の横帯を形成するが, 雄で幅狭く鮮明であるが, 雌ではこれを欠く場合が多い. 体長は幅の約2倍. 体下面は暗褐色. 体長 4.5-5.1 mm ……リュウキュウセスジゲンゴロウ *C. andamanicus* RÉGIMBART
- 57(52) 上翅には10条の縦溝があり, 亜縁溝を欠く. 体長 5.3-5.5 mm ……チンメルマンセスジゲンゴロウ *C. zimmermanni* Gschwendtner
- 58(51) 上翅は3条のまばらな点刻列をもつ.
- 59(60) 上翅側片は後方へ次第に狭くなり, 後半は溝状となる. 後基節内板の葉片部は側方で傾斜しながら外板につながる. 体は扁平 ……ヒラタマメゲンゴロウ属 *Platynectes* (全体光沢ある黒色で頭部は褐色. 上翅基部の幅広い横帯と翅端近くの丸い紋は黄色. 体長 4.9-5.7 mm) ……アトシヒラタマメゲンゴロウ *P. chujoi* M. SATÔ
- 60(59) 上翅側片は腹部第1節の側方近くで急に狭くなり, 後方は溝状とならない. 後基節内板の葉片部は側方で段をなして外板につながる. 体はやや膨隆する ……マメゲンゴロウ属 *Agabus*
- 61(62) 頭・胸部は黒色. 上翅は褐色で, 斑紋がない. 体長 6.3-7.6 mm ……マメゲンゴロウ *A. japonicus* SHARP
- 62(61) 体全体黒色で, 上翅側方後半に2小黄紋を具える. 体長 6.7-7.0 mm ……クロマメゲンゴロウ *A. optatus* SHARP

- 63(50) 後肢の爪は長さが異なり、外側の方が短い。後跗節の第1~4節後縁内角はやや三角状に突出する。後腿節下面の先端後角部に剛毛群がない。上翅は黄褐色で小黑斑点を密に装う……………ヒメゲンゴロウ属 *Rhantus* (体は黄褐色で背面の網状縮刻は粗く光沢がある。背胸背板中央の黒紋は横長の菱形。体長 10.4-11.9 mm ……ヒメゲンゴロウ *R. suturalis* (MACLEAY))
- 64(49) 複眼の前縁に前頭側縁角は湾入しない。雄の前跗節第1~3節は拡大して円形の吸盤を形成する……………ゲンゴロウ亜科 Dytiscinae
- 65(78) 後跗節の第1~4節の後縁は全面にわたって剛毛をそなえる。中型種。
- 66(77) 上翅側縁には小棘がない。前胸背板側縁は縁どられない。前胸腹板突起の先端はまるくなる。後胸側板はほとんどみとめられない。後跗節は滑沢。
- 67(76) 後胸腹板の翼片部の両側外縁はほぼ直線状となる。後跗節端棘の先端はとがる……………シマゲンゴロウ属 *Hydaticus*
- 68(73) 上翅は黒色で、それぞれ2本の鮮明な黄縦帯紋をもつ。
- 69(72) 前胸背板は中央が幅広く黒色となる。上翅に円紋を欠く。
- 70(71) 上翅の2縦帯紋は中央よりやや後方で融合する。前胸背板側縁の黄色部は幅広く、上翅内帯紋の内側の延長線に達する。体長 12-15 mm……………スジゲンゴロウ *H. satoi* WEWALKA
- 71(70) 上翅の2縦帯紋は基部1/3近くで融合する。前胸背板側縁の黄色部は幅狭く、上翅外帯紋の内側の延長線に達する。体長 12-14 mm……………オキナワスジゲンゴロウ *H. vittatus* (FABRICIUS)
- 72(69) 前胸背板は後縁に沿って黒横帯紋をそなえ、各上翅基部内方に円紋をもつ。体長 13-14 mm……………シマゲンゴロウ *H. boweringi* CLARK
- 73(68) 上翅は黄褐色ないし黒色で、黒紋および黒点紋をそなえるか、黄色の横帯紋を基部に、あるいは縦帯紋を側縁にそなえる。
- 74(75) 上翅は黒色で、黄色の基部横帯と外縁でこれにつらなる縦帯紋と不規則な斑紋をもつ。前胸背板の黒紋は小さく、基縁中央部だけにみとめられる。体長 15-16 mm……………オオイチモンジシマゲンゴロウ *H. pacificus* AUBÉ

- 75(74) 上翅は黄褐色で、一面に黒点を密布するが、側縁部、会合部、中央部の2条は黒点のない細い縦条となる。前胸背板は黒紋を欠く。体長 9-11 mm……………ウスイロシマゲンゴロウ *H. rhantoides* SHARP
- 76(67) 後胸腹板翼片部の前縁は強く湾曲する。後跗節端棘は先端が鈍く、2叉する……………マダラゲンゴロウ属 *Rhantaticus* (体は黄色で、上翅中央および後方に密集した黒点からなる不規則な斑紋がある。体長 9.5 mm 内外……………マダラゲンゴロウ *R. congestus* KLUG)
- 77(66) 上翅側縁は後半に小棘がある。前胸背板側縁は縁どられる。前胸腹板突起の先端は鋭くとがる。後胸側板は三角状で、明らかにみとめられる。後跗節には刺毛をとまなう点刻がある……………ハイイロゲンゴロウ属 *Eretes* (体は灰黄色で、上翅には黒色の3点刻列があり、後方1/3に不規則な波状横帯がある。体長 12-14 mm……………ハイイロゲンゴロウ *E. sticticus* (LINNÉ))
- 78(65) 後跗節の第1~4節の後縁は外角だけに刺毛をそなえる。後跗節の長さは幅の2倍よりも短く、端棘は外方のものの基部は太く、内方のもののほぼ倍の幅がある。大型種……………ゲンゴロウ属 *Cybister*
- 79(84) 背面は黒ないし黒褐色で、前胸背および上翅の側方は黄褐色ないし黄色で幅広く縁取られる縦帯を有する。
- 80(83) 上翅の黄色縦帯は側縁に達しない。雌の背面は縦の皺条を有する。
- 81(82) 体下面は暗赤褐色で、腹部第1~5節の両側に黄色紋を有する。体長 32-37 mm……………フチトリゲンゴロウ *C. limbatus* (FABRICIUS)
- 82(81) 体下面は黒色で、後基節側方、後胸腹板側方および翼部、後胸前側板、腹部第1~5節両側の紋は黄褐色となる。体長 31-32 mm……………ヒメフチトリゲンゴロウ *C. ventralis* SHARP
- 83(80) 上翅の黄色縦帯は側縁に達し、さらに側片にまで延びる。雌の背面は雄と同様に滑沢。体長 24-27 mm……………コガタノゲンゴロウ *C. tripunctatus orientalis* GSCHWENDNER
- 84(79) 背面は黒褐色で緑褐色の光沢をおび、上翅側方の黄色縦帯を欠く。体長 21-24 mm……………トビイロゲンゴロウ *C. sugillatus* ERICHSON

○鈴鹿山脈におけるクチナガチビキカワムシの記録
クチナガチビキカワムシ *Salpingus morishimai* SASAJI, 1987 は、チョッキリ類のような特異な形態のチビキカワムシで、主に北海道や本州中部以北で得られている。

最近になって井上(1996)*により、福井県今庄町

板取から記録されたが、現在のところ、この記録が分布の西限になっているものと思われる。

筆者は、三重県の鈴鹿山脈でこの種を得ることができたので報告する。

2頭、三重県亀山市野登山(標高 800 m 付近), 7. V. 1994, 筆者採集・保管。

文末ながら、同定の労を賜った佐々治寛之博士、文献を恵与された斎藤昌弘氏に感謝したい。

(三重県久居市, 秋田勝己)

* 井上重紀, 1996. 1995年甲虫拾遺. 福井虫報, (18): 51-56.

○アヤスジミゾドロムシの採集記録

アヤスジミゾドロムシ *Graphelmis shirahatai* (NOMURA) は、山形県から得られた2頭を基準標本として1958年に記載された種である。しかしその後、宮城県、新潟県、兵庫県、東京都からの単発的な採集記録があるのみで、1976年以降、最近の採集記録はない(佐藤, 1985b; 1986)。また上記のほとんどが灯火採集による記録であり、本種の本来の棲息環境であると思われる水中からは採集されていない。

筆者は最近、愛知県において本種を河川より採集し、その生態の一面を観察することができたので報告する。

9頭、愛知県岡崎市細川町(矢作川), 7. VIII. 1996.

採集場所は、矢作川の中・下流域で、巴川の合流地点に近い本流である。そこは流れがややカーブして淵になっており、水深は50cm程度、水底は砂地で流木やごみが沈んでいた。本種はその沈んでいる流木の側面や底面にしがみついていた。流木は針葉樹の丸太のようなものが多かったが、樹皮のまだ若干残っている細いサクラ(ソメイヨシノ?)とケヤキの枝にのみ、多数のミヤモトアシナガミゾドロムシ *Stenelmis miyamotoi* NOMURA et NAKANE と共に見られた。それらの枝を水中から引き上げてみると、ミヤモトアシナガミゾドロムシは比較的活発に歩き回り、交尾行動も観察したが、アヤスジミゾドロムシは活発には歩き回らない様子で、交尾は観察することができなかった。9月にも同地を訪れているが、本種を採集することは出来なかった。

今後は夏季に、中流域の底が砂地である場所に沈んでいる広葉樹の流木を調べることにより、本種が各地で採集される可能性が高い。

なお、佐藤(1985a)に図示されている標本(pl. 80: 9)は、前胸背や上翅の模様、腿節の基部を除く前・中・後脚が褐色であるが、体ではそれらが淡い黄色で、特に脚の色が淡く目立っている。

末筆ながら、日頃より御指導いただいている名古屋女子大学の佐藤正孝教授と、矢作川について色々とお教示いただいた豊田市矢作川研究所の田中 蕃氏と名城大学動物学研究室の白金晶子氏にお礼申し上げます。



アヤスジミゾドロムシ(右)とその生息地(左)。

参考文献

- NOMURA, S., 1958. Drei neue *Stenelmis*-Arten aus Japan. *Entom. Rev. Japan*, 9: 41-45.
 佐藤正孝, 1985a. 原色甲虫図鑑(II). ヒメドロムシ科: 434-440.
 ———— 1985b. 日本産水棲甲虫類の分類学的覚え書 III. 甲虫ニュース, (69): 1-5.
 ———— 1986. 板橋区の昆虫類. 板橋区昆虫類等実態調査, p. 57, 94.

(名城大学, 吉富博之)

○コバヤハズカミキリの越冬個体採集例

コバヤハズカミキリ類の越冬個体の採集例として、セダカコバヤハズカミキリ *Parechthistatus gibber* (BATES), マヤサンコバヤハズカミキリ *Mesochthistatus furciferus* (BATES) (河路, 1976), フジコバヤハズカミキリ *M. Fujisanus* HAYASHI (平井, 1980) が報告されている。また江崎(1992)は、コバヤハズカミキリ *M. binodosus* (WATERHOUSE) の越冬状態を調査するために集めた落葉から1♀を得たことを報告している。今回筆者は、コバヤハズカミキリの越冬個体を採集したので報告する。

1♂, 新潟県北魚沼郡湯之谷村津沢, 30. IV. 1994, 筆者採集・保管。

スギの立ち枯れの樹皮下(地上高約50cm)に堆積した木粉中より採集。当日、付近にはまだ残雪が多く、本個体は越冬状態にあったものと考えられる。また、これとはほぼ同条件の立ち枯れより、マイマイカブリ *Damaster blaptoides* KOLLAR 3雌を採集している。

引用文献

- 江崎功二郎, 1992. コバヤハズカミキリの越冬調査と飼育観察. げんせい, (59/60): 3-10.
 河路掛吾, 1976. コバヤハズカミキリ類の冬期採集例. 月刊むし, (61): 21.
 平井 勇, 1980. フジコバヤハズカミキリの越冬について. 月刊むし, (109): 12-15.

(日本大学生物資源科学部, 榊原陽一)

○シラホシナガタマムシを埼玉県で採集

シラホシナガタマムシ *Agrilus alazon* LEWIS は、埼玉県下ではこれまで採集の報告がないようである(藤多, 1995)。

最近筆者は、埼玉県秩父郡大滝村で本種を採集したので報告する。

1頭, 埼玉県秩父郡大滝村小双里, 25. V. 1996, 石蔵 拓採集。

花のスィーピングで偶然得られたもので、近くにエノキはなかった。

参考文献

- 藤多文雄, 1995. 埼玉県産タマムシ科既知種目録. 寄蛾雑誌, (75): 1850-1852.
 黒沢良彦ほか, 1985. 原色日本甲虫図鑑(III). 保育社。

(東京都北区, 石蔵 拓)

日本産エンマムシ上科概説 IV^{注1}

—エンマムシ亜科 (エンマムシ族: クロエンマムシ属,
アラメエンマムシ属, エンマムシ属)—

大原昌宏

1-3-5-4. エンマムシ族 Histerini

エンマムシ族は31属からなり, 世界に約600種, 日本からは26種が知られている. エンマムシ科の中では最大の族で, 大型種が多いため種レベルの記載も進んでいる. しかし, 似た種が多く同定には交尾器による確認が必要な場合も多い. 「前脛節の跗節を受ける溝が直線状」「中胸腹板前縁は中央が後方へ波状にへこむか, ほぼ裁断状」の形質状態で他族と区別される. 日本にはさらに2属2種の未発表の追加種がある.

クロエンマムシ属 *Hister* LINNAEUS, 1758

世界に236種, 日本からは6種が知られる. クロエンマムシ属は, エンマムシ科のなかでは最も古く作られた属のため, LEWIS (1904), WENZEL (1944) らによって, *Atholus*, *Merohister*, *Grammostethus*, *Margarinotus* などの特徴のはっきりしたグループは別属として *Hister* から分離された. しかし, すべてが分離され分類整理された訳ではなく, 今に「異質な」種が残されたままになっている. 再検討の必要な属でもある. 日本産の種については ÔHARA (1994) に再記載がある.

- 1(2) 鞘翅の副肩条は欠く.
……………ツヤエンマムシ
- 2(1) 副肩条をもつ.
- 3(6) 前脛節腹面には完全な脛節線をもつ (図2C).
- 4(5) 鞘翅第1, 2背条は完全.
……………ヤマトエンマムシ
- 5(4) 鞘翅第1から3背条まで完全. ……………イブシエンマムシ
- 6(3) 前脛節腹面の脛節線は短く先端1/3にある.
- 7(8) 前胸背前縁はえぐられ, そのえぐられた部分の中央は弧状に前方にふくらむ (図2F).
……………ヒメツヤエンマムシ
- 8(7) 前胸背前縁はえぐられ, その中央部分は弧条に前方にふくらまない.
- 9(10) 尾節の点刻は細かく, 点刻はその直径ほど互いにはなれる. ……………ニセクロエンマムシ

10(9) 尾節は密に粗い点刻をもつ, その点刻間は直径の1/3ほどに離れる. ……………クロエンマムシ
ツヤエンマムシ

Hister impunctatus ÔSAWA, 1952

ÔSAWA, 1952: 6 [Myôken, Osaka].

原記載以来記録のない種でタイプ標本の所在も不明確になっている. 鞘翅の副肩条溝を欠くことで区別される. 分布: 本州 (大阪).

ヤマトエンマムシ (図2A, B, C)

Hister japonicus MARSEUL, 1854

図説 N: 70; 図説 H: 227; ÔSAWA, 1994: 114 [再記載, ♂交尾器].

大型のエンマムシで同じサイズのものに *Merohister jekeli* と *Hister congener* があるが, 検索表の形質状態で区別できる. 分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 伊豆諸島, 隠岐. アムール, 中国, 韓国, ヴェトナム. イブシエンマムシ (図2D, E)
Hister congener SCHMIDT, 1885

図説 N: 70; 図説 H: 226; ÔHARA, 1994: 118 [再記載, ♂交尾器].

高地の牧場の牛糞などから採集される. 少ない. *japonicus* とは検索にあげられた形質状態のほか「後胸腹板側条は外側から内側斜め後方へ伸びる条溝と合一しない」「前脛節末端外歯上に1外刺をもつ」「前胸側板に毛を密生する」でも区別できる. 分布: 本州, 沿海州, 韓国, 台湾, 中国北部.

ヒメツヤエンマムシ (図2F)
Hister simplicisternus LEWIS,

1879

Hister simplicisternus: 図説 H: 227; ÔHARA, 1994: 123 [再記載, ♂交尾器]. ……*Hister togoii* LEWIS, 1914: 286 [対馬].

鞘翅副肩条溝は短く弧状で深い. 前胸背前縁の後方へえぐられた部分の中央は前方へ弧状にふくらむ. 分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 韓国.

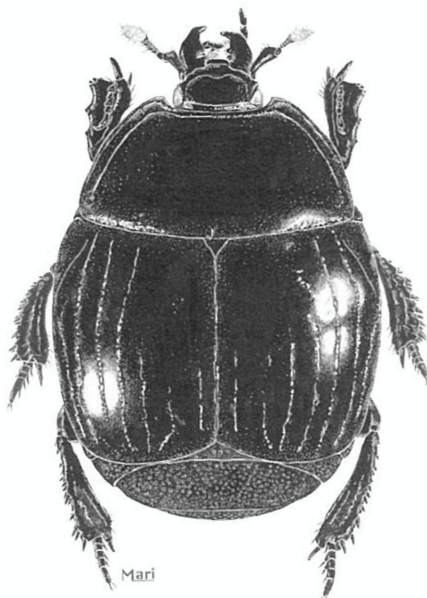


図1 クロエンマムシ *Hister concolor* LEWIS

¹⁾ M. ÔHARA, Taxonomic note on the superfamily Histeroidea of Japan, IV.

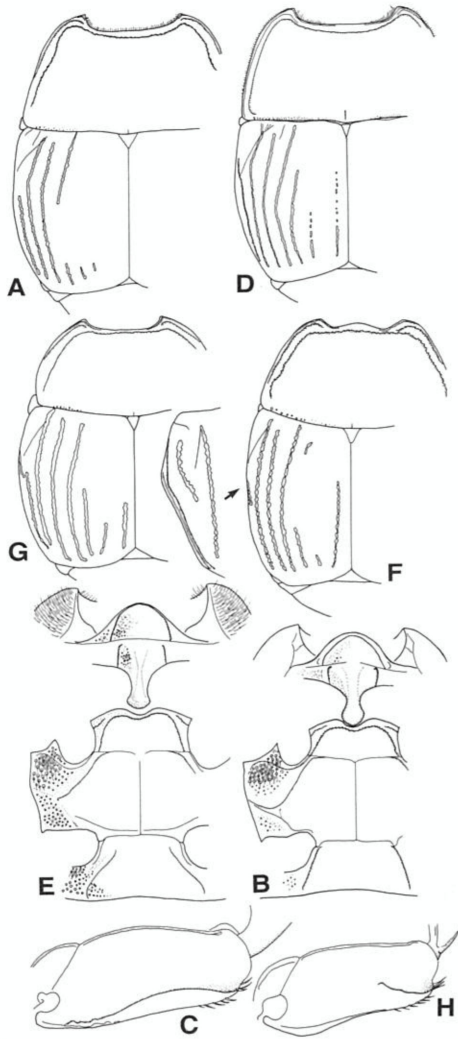


図2 クロエンmamシ属. A-C: ヤマトエンmamシ, D-E: イブシエンmamシ, F: ヒメツヤエンmamシ, G-H: クロエンmamシ. A, D, F, G: 前胸背・鞘翅背面, B, E: 前・中・後胸腹板, C, H: 前腿節腹面. (ÔHARA, 1994より).

ニセクロエンmamシ

Hister unicolor leonhardi BICKHARDT, 1910

Hister leonhardi BICKHARDT, 1910: 180 [East Siberia].……*Hister unicolor opimus*: REICHARDT, in KRYZHANOVSKIY and REICHARDT, 1976: 227 [USSR: Zabaikal'e and Primorskij; Japan: Unzen].……*Hister unicolor leonhardi*: MAZUR, 1984: 199.

KRYZHANOVSKIY and REICHARDT (1976)により島原雲仙から記録された。それ以外の日本の記録はない。分布: 九州(島原), 東シベリア, 沿海州, モンゴル, 韓国, 中国北東部。

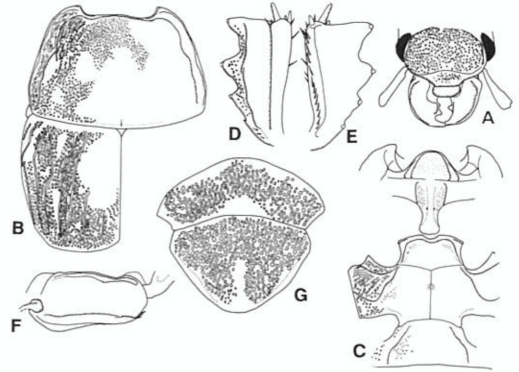


図3 アラメエンmamシ. A: 頭部, B: 前胸背・鞘翅背面, C: 前・中・後胸腹板, D: 前腿節腹面, E: 同腹面, F: 前腿節腹面, G: 前尾節, 尾節 (ÔHARA, 1994より).

クロエンmamシ (図1, 2G, H)

Hister concolor LEWIS, 1884

図説 N: 70; 図説 H: 227; ÔHARA, 1994: 127 [再記載, ♂交尾器].

やや新しい牛糞にいる。分布: 千島列島(国後), 北海道, 本州, 中国(遼寧省).

アラメエンmamシ属

Zabromorphus LEWIS, 1906

世界に21種, 日本からは1種が知られる。背面に粗い点刻を密にもつことで他属との区別は容易。ÔHARA (1994)に再記載がある。

アラメエンmamシ (図3)

Zabromorphus punctulatus (WIEDEMANN, 1819)

Hister punctulatus: 図説 N: 70.……*Zabromorphus punctulatus*: 図説 H: 227; ÔHARA, 1994: 132 [再記載, ♂交尾器].

日本ではきわめて珍しく, 私は愛知と大阪空港の標本を見ているにすぎない。後者はフィリピンの個体とよく似ており移入個体の可能性が高い。分布: 本州, 九州, 台湾, インドネシア(ジャワ), フィリピン。

エンmamシ属

Merohister REITTER, 1909

世界に7種, 日本からは3種が知られる。前胸背側方に粗い点刻群をもつことで区別される。本属の日本産の種については私の再記載がある (ÔHARA, 1992a,b).

1(2) 頭部の前頭条内側前方にいくつかの粗い点刻をもつ。……………アイヌエンmamシ

2(1) 頭部の前頭条内側に粗い点刻はもたない。

3(4) 中, 後腿節は普通で偏平にはならない。前胸背の点刻はたいてい側方前半にある。雄生殖器のパラメラは細長い。……………エンmamシ

4(3) 中, 後腿節は広く偏平になる。前胸背の点刻は側方全体にある。雄生殖器のパラメラは太く短い。……………アマミエンmamシ

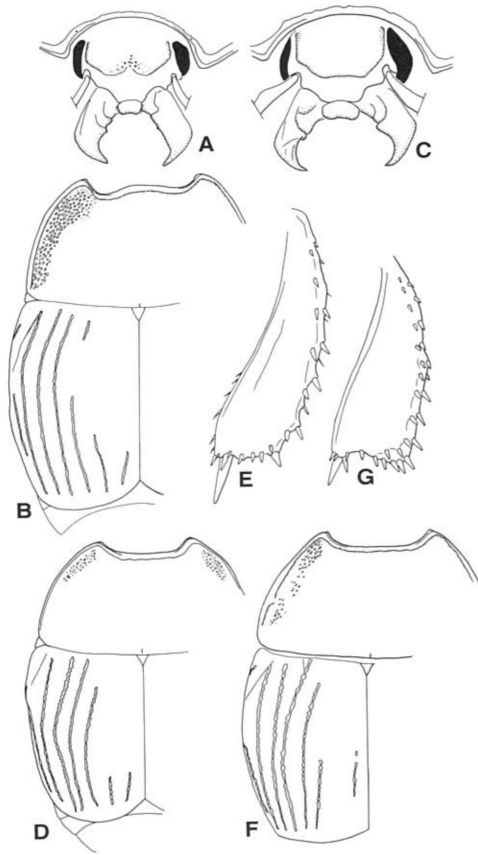


図4 エンマムシ属。A-B: アイヌエンマムシ。C-E: エンマムシ。F-G: アマミエンマムシ。A, C: 頭部。B, D, F: 前胸背・鞘翅背面。E, G: 中脛節腹面 (OHARA, 1992a, bより)。

エンマムシ (図4C, D, E)

Merohister jekeli (MARSEUL, 1857)

Hister jekeli: 図説 N: 70. *Merohister jekeli*: 図説 H: 226; OHARA, 1992a: 375 [再記載, ♂交尾器]。

普通種。古い牛糞, 豚糞, 鶏糞, 植物やキノコ類の腐敗物, 動物性腐敗物などさまざまな環境から採集される。分布: 千島列島 (色丹), 北海道, 本州, 四国, 九州, 佐渡, 伊豆諸島, 対馬, 南西諸島, 樺太, 沿海州, 韓国, 台湾 (本土, 蘭嶼島), 中国, フィリピン, インド。

アイヌエンマムシ (図4A, B)

Merohister aino (LEWIS, 1884)

OHARA, 1992a: 385 [再記載, ♂交尾器]。

体長 (PPL: 前胸背前端から尾節後端まで) 7.2-8.2 mm, 最大幅 5.05-5.9 mm。黒色; 跗節, 触角は暗褐色。前頭条は通常前方中央で途切れ, その内側には数個の粗い点刻をもつ。前胸背側条は完全; その内側に粗い点刻を広く後方でもつ。鞘翅の外副肩条は基部 1/2, 内副肩条は後方 2/3 にあり, 背条

1-3 条は完全; 4 条は後方 1/2 から完全にあるものまで変異がある; 5 条と会合 (6) 条は後方 1/4 にある。前尾節, 尾節はエンマムシに比べ粗い点刻をまばらにそなえる。脛節は偏平。鳥の巣材の中や伐採木の上を歩いていた個体が採集されているため, 樹上の鳥の巣に依存した種と考えられる。少ない。分布: 北海道, 本州 (栃木県より北)。

アマミエンマムシ (図4F, G)

Merohister uenoi M. OHARA, 1992

OHARA, 1992b: 495 [記載, ♂交尾器]。

原記載で記録された 1 雄のみが知られる。大型種。体長 (PPL) 9.23 mm, 最大幅 6.46 mm。黒色; 跗節, 触角は赤褐色。前頭条は完全で前方中央でやや後方へ角張る。前胸背側条は完全; その内側にはまばらに粗い点刻をもち, 後半はよりまばら。鞘翅の外副肩条は肩部にあり, 内副肩条は後半にある; 背条 1-3 条は完全; 4 条は基部 1/6 を欠く; 5 条は後方 1/3; 会合条は中央後方 1/4 にある。前尾節, 尾節は粗い点刻をそなえ, 尾節ではやや密。脛節は偏平。雄交尾器は特異な形をしており, パラメラの腹面に鉤をもつ。採集者の大林延夫博士によると, 採集当日動物死体などの採集はしていないため, 材かピーティングで採集されたものらしい。aino に形態も似ており, 同じ様な生活をしている可能性がある。種名は上野俊一博士に献名。分布: 南西諸島 (奄美大島: 八津野)。

概説 I, II, III の訂正 (甲虫ニュース第 113-115 号)

I: p2. 左段 19 行目: 「*Sphaerites politus* MANNERHEIM, 1846」を「*Sphaerites glabratus* (FABRICIUS, 1792)」に。上野輝久氏から LÖBL (1996) のエンマムシダマシの論文がでていることをご教示いただいた。関係する内容は, 日本のエンマムシダマシの誤同定が指摘されたもので, 北米に分布する *politus* ではなく, 旧北区に広く分布する *glabratus* であるとしている。以前から中根猛彦博士も私も *politus* の同定には疑問をもっており, 私はヨーロッパの *glabratus* と比較し, また日本の標本をロシア研究者に送り見てもらったが差が見いだされなかった経緯がある。しかし, 北米の標本との比較を行っていなかったため従来の処置を踏襲していた。従ってエンマムシダマシは北米と北海道の隔離分布を示す種ではなく, 大陸から北方経由で北海道へ分布を広げた (高山性) 甲虫の一種ということになる。区別点は (図で示されると) 明瞭で, *politus* は後脚転節後縁に突起をもち, *glabratus* はもたない。大きな疑問が一つ解決された。II: p5. 左下から 3, III: p6. 右 7: 「(1985)」を「(1986)」に。

参考文献 (I で挙げたものは*を付け略した)

BICKHARDT, H. (1910). Beiträge zur Kenntnis der Histeriden V. *Ent. Bl.*, 6: 223-227.
*久松定成 (HISAMATSU, S.) (1985). [図説 H].
*KRYZHANOVSKIY, O. L. and A. N. REICHARDT (1976).
LEWIS, G. (1904). On new species of Histeridae and not-

- ices of others. *Ann. Mag. Nat. Hist.*, (7)14: 137-151.
- LÖBL, I. (1996). A new species of *Sphaerites* (Coleoptera: Sphaeritidae) from China. *Mitteilungen der Schweizerischen Entomologischen Gesellschaft*, 69: 195-200.
- *MAZUR, S. (1984).
- *中根猛彦 (NAKANE, T.) (1963). [図説 N]
- OHARA, M. (大原昌宏) (1992a). A revision of the genus *Merohister* from Japan (Coleoptera, Histeridae), Part 1. *Jpn. J. Ent.*, 60(2): 377-389.

OHARA, M. (1992b). A revision of the genus *Merohister* from Japan (Coleoptera, Histeridae), Part 2. *Jpn. J. Ent.*, 60(3): 495-501.

*OHARA, M. (1994).

OSAWA, S. (大澤省三) (1952). On some species of Histeridae from Japan and its adjacent district (Col.). *Ent. Rev. Japan*, 6: 4-6.

*WENZEL, R. L. (1944).

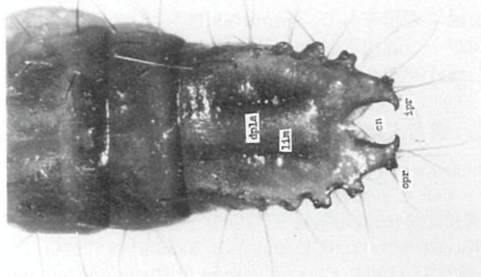
(小樽市博物館)

○アマミヒメサビキコリの幼虫

アマミヒメサビキコリ *Agrypnus (Colaulon) amamianus* (KISHII, 1974) は、奄美大島で得られた個体にもとづいて KISHII (1974) がヒメサビキコリ *A. (C.) scrofa* (CANDÈZE, 1873) の亜種として記載したが、のち大平 (1986) は種として扱った。また、奄美大島産の成虫の形態は大平 (1995) にも紹介されており、現在では奄美大島、徳之島、沖縄本島に分布することが判明している。本種は琉球列島から知られている後翅がよく発達した唯一のヒメサビキコリで、内陸部の川原の砂礫中、荒地や畑の石下や敷物下などに生息し、ときに灯火にも飛来する。

筆者は1996年5月に沖縄本島の辺土名にある琉球大学農学部附属演習林で、河原の砂礫中より成虫と共に2頭の老熟に近い幼虫を採集した。これは飼育して成虫を確認していないが、生息環境や大平 (1961) が明らかにしたヒメサビキコリの幼虫などと比較し、本種であると考えられるので、ここにその形態の一部を明らかにすることにした。

老熟に近いと思われる幼虫は体長14mm内外でやや扁平状、頭部、前胸背板や第9腹節背板などは黄褐色、残りの背板はやや暗黄褐色、膜状部は淡黄色である。第9腹節背板(dpla)の外形は図示したようで、ヒメサビキコリに比してやや細長く、両側の後方の3対の歯状突起はよく発達し、背板上の側溝(lim)は深く印する。また、末端のUrogomphusの内突起(ipr)は内方に湾曲し、末端はやや上反してとがり、外突起(opr)とはほぼ同じ大きさである。ヒメサビキコリは外突起の方が明らかに長大である。尾節凹陷(cn)はハート型で、幅よりやや長い。今後さらに多くの個体を得て、詳しい形態を明らかにしたいと考えている。



引用文献

- KISHII, T., 1974. Elaterid-beetles from the Ryukyu Archipelago, collected by Messrs. I. MATOBA, O. TAMURA and T. TAKAHASHI in the Spring of 1973, with some new forms and notes. The snappers of Islands (VII). *Bull. Heian High School, Kyoto*, (18): 1-19, 4 pls.
- 大平仁夫, 1961. 日本産コメツキムシ科の幼虫の形態学的ならびに分類学的研究: 1-179, 61 pls.
- 1986. 日本産ヒメサビキコリ類について(コメツキムシ科). 越佐昆虫同好会々報, (63): 3-13.
- 1995. 九州に産するコメツキムシ科の珍種(51). 北九州の昆虫, 42(1): 59-60, 1 pl.

(愛知県岡崎市, 大平仁夫)

○ケバカヒラタカミキリの交尾姿勢

ケバカヒラタカミキリ *Nothorhina punctata* FABRICIUS は、1977年ころまでは非常に稀な種であると考えられていたが、現在では本州から九州にかけての平地のアカマツに普通に生息していることが判明している。本種がアカマツの樹皮下で交尾することは新里(1980)等によって報告されているが、交尾姿勢について言及した報告はこれまでにないようである。筆者は埼玉県下で本種の交尾を観察したが、その姿勢が一般のカミキリムシとは異なっていることに気付いたので参考までに記録しておきたい。

1♂1♀(観察後採集, 筆者保管), 埼玉県大宮市高鼻町大宮公園, 8. IX. 1996.

観察地点は中山(1979)によって発見された生息地で、本種の個体数は多い。観察された個体は、胸高直径約60cmのアカマツの、地上から約1.2mの高さの樹皮下の最も浅い部分から見出されたもので、♂が左斜め上、♀が右斜め上を向き、体の中心線が約60度で交わる姿勢で腹端を結合させていた。樹皮を取り除いても全く動かなかったことから、最初からこの姿勢で交尾していたものと思われる。

カミキリムシの交尾姿勢は、体形が平たい種にあっても、♂が♀の背面に騎乗するのが通例であり、本種のような姿勢は非常に例外的であると思われる。本種の交尾姿勢は、一生を通じて樹皮下に隠れ続ける生態を示唆するもので、本種が長い間容易に人目に触れなかった原因の一つであると考えられる。

参考文献

中山不羈, 1979. ケブカヒラタカミキリを大宮市にて採集. 月刊むし, (105): 34.

新里達也, 1980. ケブカヒラタカミキリ採集案内. 月刊むし, (114): 24-26. (埼玉県浦和市, 芳賀 馨)

○新潟県川口町におけるマグソクワガタとケシマガソコガネ族 2 種の記録

マグソクワガタ *Nicagus japonicus* NAGEL の新潟県下での記録は少なく, 新発田市, 鹿野瀬町長走川, 湯久谷村銀山平の 3 地点から少数の個体が採集されているにすぎない (山屋, 1990). 筆者は信濃川中流の川口町で本種を採集したので, 採集地点の環境の状態とあわせて記録しておきたい.

2♂♂, 新潟県北魚沼郡川口町本町, 30. IV. 1995; 1♀ (写真 1), 同町牛ヶ島, 同日付.

川口町本町の採集地点 (写真 2) は支流魚野川右岸の河川敷で, JR 飯山線の鉄橋の直下流である. アシ, シダ, ススキ等の草地で, ヤナギ, クワの幼木が少数生えているものの, 樹林といえるものはない. 牛ヶ島の採集地点 (写真 3) は魚野川合流後の本流の左岸の中州である. やはりアシを主体とする草地であるが, ヤナギが樹高約 2 m に育って疎林状となり, その倒木が散在する. 中州の内陸部には樹高約 15 m のハンノキ等の樹林が発達する. 採集した個体はいずれも, 4 月 23 日の降雨による増水で打ち寄せられたと思われる枯れたアシの堆積中から見出された. 採集時の状況から考えて上流から流されてきたものと思われるが, 牛ヶ島の採集地点の環



境は田花・奥田 (1992) が報告したものと類似しているため, 牛ヶ島においては定着しているかもしれない.

なお, 牛ヶ島においては同じ堆積中からケシマガソコガネ族のマグソコガネ 2 種が得られた. 山屋 (1990) によれば, 新潟県下では海岸部を除いて記録が少ない種であるので, あわせて記録して



おきたい.

セマルケシマガソコガネ *Psammodius convexus* WATERHOUSE 2 頭, 同町牛ヶ島, 同日付.

ホソケシマガソコガネ *Trichiorhyssenus asperulus* (WATERHOUSE) 2 頭, 同町牛ヶ島, 同日付.

末筆ながら, 文献の入手に便宜を図って下さった山屋茂人氏に心からお礼申しあげる.

参考文献

田花雅一・奥田則雄, 1992. マグソクワガタについて. 月刊むし, (256): 4-10.

山屋茂人, 1990. 新潟県のコガネムシ相. 長岡市立自然科学博物館研究報告, (25): 25-36.

(埼玉県浦和市, 芳賀 馨)

○モンアシフトゾウムシ千葉県の記録

モンアシフトゾウムシ *Ochyromera japonica* (ROELOFS) は四国, 九州, トカラ中之島が産地として知られており, 本州からは和歌山県恵須崎が唯一の既知産地と思われる.

久保浩一氏が 1996 年に千葉県で採集され, 筆者に同定を依頼された甲虫標本のなかに本種が多数含まれていたため, 本州における東限の新産地として記録する.

7 頭, 千葉県一宮町東浪見, 7. VIII. 1996, 久保浩一採集, 渡 弘保管.

東浪見は九十九里浜の南端に位置し, 太平洋に面した所である. 採集者の久保氏によれば, この付近の農家では, 庭木としてイヌマキ *Podocarpus macrophyllus* (THUNB.) の古木を大切にしており, 本種はそのようなイヌマキから採集されたとのことである.

末筆ながら, 同定の確認をしていただき, また, 本種について種々お教えいただいた小島弘昭氏および標本を恵与され, 発表を許された久保浩一氏に深謝する.

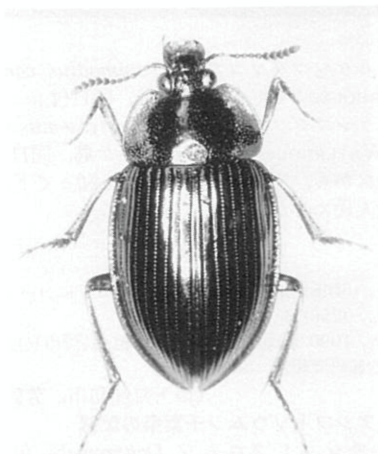
参考文献

KOJIMA, H., & K. MORIMOTO, 1996. The tribe Ochyromerini (Coleoptera, Curculionidae) of Japan II. Genus *Ochyromera* PASCOE. *Jpn. J. Ent.*, 64: 570-586.

(神奈川県横浜市, 渡 弘)

○オオツヤシテムシを徳之島で採集

オオツヤシテムシ属 *Necrophilus* はツヤシテムシ亜科の中では大型 (10 mm 内外) で、ヨーロッパ、北アメリカ、ニュージーランドと特異な分布を示す。日本からは1969年オオツヤシテムシ *N. nomurai* が奄美大島八津野産の標本に基づいて芝田太一氏により記載された。当然徳之島にも生息が予想されたが、その活動が採集家のあまり訪れない早春に限られているためか、これまで記録がなかった。



筆者は、車にはねられた鳥の死体を山道の脇に運んで、そこに集まった本種を採集した。

1♂, 1♀, 29. III. 1996, 鹿児島県大島郡徳之島町三京; 4♂♂, 2♀♀, 30. III. 1996, (同); 6♂♂, 3♀♀, 31. III. 1996, (同)。

その後、奄美大島でも本種を得たので記録しておく。

1♂, 23. IV. 1996, 八津野; 1♀ (未成熟), 23. IV. 1996, 湯湾岳; 3♀♀, 24. IV. 1996, 八津野。

採集はいずれも鳥肉のトラップによる。

末筆ながら、標本の撮影をしていただいた野津裕氏に厚くお礼申し上げる。

(神奈川県小田原市, 見山 博)

○ミツモンヒゲナガゾウムシを埼玉県で多数観察

先日、なまぐさ黒穂病を研究されている埼玉県農業試験場の野田 聡氏より江村 薫氏を介してミツモンヒゲナガゾウムシの同定依頼を受けた。発生源にたいへん興味があるので後日 (1996年12月3日)、熊谷市にある現地を訪れたところ、なまぐさ黒穂病菌におかされたコムギの穂に丸い穴が開き、その周辺に本種が多数ついているのを観察した。

Trigonorhinus trimaculatus (SENOH, 1986) ミツモンヒゲナガゾウムシは、東京都江戸川区の荒川河川敷および福岡県田川市から記載されて以来、これまでに岐阜、愛知が産地として知られている。

末筆ながら、発表を快諾された野田 聡、江村 薫の両氏に深謝する。

(中央大学附属高校, 妹尾俊男)

◇会計報告◇

1995年度決算 (1995年1月1日~12月31日)

収 入	予 算	決 算	増 減
前年度繰越金	3,900,000 円	4,100,978 円	200,978 円
会費	3,000,000	3,037,505	37,505
出版物売上金	120,000	120,000	0
大会会場費	84,000	168,000	84,000
大雑寄	70,000	101,000	31,000
寄 入 付	0	41,507	41,507
	0	100,000	100,000
合 計	7,174,000	7,668,990	494,990

支 出	予 算	決 算	増 減
会誌印刷費 (Elytra)	1,600,000 円	1,954,270 円	354,270 円
(甲虫ニュース)	400,000	419,002	19,002
会誌送料	750,000	681,333	-68,667
通信費	200,000	127,600	-72,400
事務費	100,000	54,682	-45,318
大会会場費	30,000	0	-30,000
予備費	50,000	40,000	-10,000
次年度繰越金	4,044,000	4,392,103	348,103
合 計	7,174,000	7,668,990	494,990

特別会計 1995年度決算

収 入	支 出
前年度繰越金	907,520 円
利息	1,503
上野先生退官記念事業売上金	100,000
特別号 (No. 4) 売上金	160,000
寄付 (カミキリ大図鑑著者より)	521,600
次年度繰越金	1,690,623 円
合 計	1,690,623

(会計担当, 斉藤明子)

◇『甲虫ニュース』原稿募集◇

『甲虫ニュース』の原稿の送付先: ☎196 東京都昭島市つつじが丘 2-6-22-806 妹尾俊男宛

日本鞘翅学会

会費 (一カ年) 6,000 円, 次号は1997年3月下旬発行予定

発行人 佐藤正孝

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町 3-23-1

国立科学博物館昆虫第1研究室

電話 (3364) 2311, 振替 00180-3-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6 号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷 1 丁目 7-6

振 替 00130-4-21129

電 話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

F A X (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社